

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につきやすいところに理念を掲示し、地域とのつながり、その人らしさを大切にしている。職員に理念に沿った目標をたててもらい、理念の共有、意識付けに努めている。	ホームの理念は管理者と職員により作成され、日々のサービスの提供場面の中で職員が常に立ち戻る根本的な考えとしている。法人の七つの理念とホーム独自の理念を念頭に職員は年度目標を立て管理者が保管し、それに基づき日々のサービスの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の育成会との交流や、事業所で地域交流会夏祭りを計画し、催しものにお誘いしている。また、地域行事への参加や、すれ違う方へ積極的に挨拶をするなど、地域の一員として認めてもらえるよう努めている。	自治会に加入し、回覧板を通して区の防災訓練や公民館でのしめ縄作りなどのお知らせをいただき参加している。また、地区の「ふれあいマーケット」に利用者の作った貼り絵や3本仕立ての菊の花等を毎年出品している。7月にホームで開かれた地域交流会、「座敷日和」にも地域の方々や家族など多数の方の参加をいただいた。また、近隣の中学校3校から職場体験の生徒の受け入れも行ない、若人とふれあう機会をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の場では、認知症の方の生活に少しでも触れてもらい、やれる力を生かした介助などを感じてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や、行事、活動報告を行っており、意見をいただくことで、事業所に取り入れるようにしている。防災での意見も多くいただいております。訓練や、意識向上につながっている。	2ヶ月に1度、平日の午後、開催している。利用者家族、区長、民生委員、市福祉課担当者等が出席し、職員との双方向的な会議が開催されている。特に家族の方々から力強い協力を得ており、ホームと住民との良き架け橋となっていたいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では話し合いだけではなく、行事への参加も取り入れており、そういった形で事業所の様子を知っていただくことで、身近に感じることができ、協力関係の構築にもつながっている。	市担当部署とは運営推進会議を通しホームの現状を見聞きしていただく中で種々な相談ができる関係性を築いている。また、ホームにて市の認定調査の面談が行われ、家族が必ず同席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしておらず、夜間は防犯のため施錠している。職員が拘束をしないという意識を持っており、実践できている。	玄関は日中施錠していない。帰宅願望のある利用者の方には一緒に散歩しながら気分転換を図り、時には利用者の自宅まで行きお仏壇に手を合わせてくこともある。また、職員は身体拘束をしないケアについて法人の内部研修を受け正しく理解し、身体拘束や行動を制限することのないよう留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し、知りえた情報をミーティングにて報告することで、周囲徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて学ぶ機会を持ち、共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安なことなど話しやすい雰囲気作りを心掛けており、しっかり説明することで、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで、意見、要望など話す機会があり、意見等を取り入れるように努めている。	年1回の家族会は呼びかけから当日の行事内容まで家族会役員で取りまとめ行なわれている。ホーム周りの草刈、全員でいただく昼食作り、その後の会議と充実した内容で開催され、出された意見・要望は職員ミーティングで話し合い、サービスの充実に向けて活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや、月一回の全体ミーティング時に、個々の意見など聞くことで、必要に応じて取り入れたたり、改善している。	毎月月末に定例職員ミーティングを全員が出席し実施している。職員の意見や要望等は管理者が把握し、運営に取り入れている。管理者と職員との面談もあり、お互いの信頼関係も築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	精神的、体力的なことも考慮しながら、シフト作りしており、職員個々に担当利用者、役割を持ってもらうことでやりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加しており、職員の力量に合わせて、指導、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事業所同士で、夏祭り、地域交流会への招待、参加し合っており、お互いの良いところを学ぶように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに寄り添うことを心掛け、会話を多く持つことで、言葉の中にある思いや、希望、不安の把握、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来やすく、話しやすい雰囲気作りを心掛け、家族の思いの把握、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、状態を把握することで、安心できるような支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないこと、困難なことへの支援をしながらも、できることは教えてもらい、行っていただくこと。そして感謝の言葉を忘れず、ともに支え合っている家族のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来やすい雰囲気作りを心掛け、利用者の家族への思いを感じられるような言葉を伝えるように努めている。家族の協力が大きく、感謝伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所への外出や、知人、友人の訪問があったときは、ゆっくりできるよう、場所の提供、関わりをしている。	利用前に住んでいた近所の方の随時の訪問を受け方、家族の協力を得て女学校時代の友人の訪問を受ける利用者もいる。また、電話や手紙の支援もしている。利用者は職員と馴染みの店へ毎日買い物に出かけ、利用者の希望するものや必要なものの買い物をしたり、気分転換もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の言つ、言わないを把握し、トラブル防止に努めるとともに、職員が間に入ることで、関わりがうまく持てるよう支援している。また、利用者同士で助け合う姿も見られており、安全に配慮しながら見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族が、野菜を提供してくれたり、関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から会話を多く持つようにし、希望、意向の把握に努めている。また、家族から聞いたこと、本人の生活歴など考慮しながら、本人本位に検討している。	利用後の日々の心身状態等を把握し、思いや意向を言葉や表情から推し量っている。言葉によるコミュニケーションに波があり難しい場合には表情から汲み取り、各利用者毎にきめ細かく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から入居時に生活歴を記入してもらっている。また本人、家族との会話から把握に努め、馴染みの生活に近づけるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ場面でも、本人の状態にあわせた関わりを持っている。また、できることが継続できるよう、見守る大切さを大事に考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを行い、本人の状態の把握に努め、家族の意向、思いを聞き、職員間で話し合いをもつことで、より良い介護計画となるよう努めている。	利用者の担当制をとっている。介護計画の作成に当たり、利用者や家族の意見・意向を聞き、ケア計画に反映している。担当者会議において職員の意見交換やモニタリングが行なわれている。定期的な見直しと現状に即した計画の見直しも行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの記録をしっかり残すように努めている。プラン以外にも、気づいたことを記録し、必要に応じて、関わりやプランの見直しにつなげている。記録を読むこと、申し送りや、ホワイトボードを活用しながら、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族来所時には普段の様子、気づいたことなど話すようにしており、その中で、家族の意見、意向を聞きながら、状態に合わせた関わりができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流会実施や、地区のしめ縄作りなどに参加している。買い物に出かけたり、施設の中だけの生活にならないよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診があり、年1回は血液検査も行っている。希望によって、施設のかかりつけ医だけではなく、今まで通っていた医療機関も受けられるようになっている。	かかりつけ医の定期受診は家族が利用者の状態を把握する大切な機会であるため、原則的には家族の付き添いとしているが、緊急の場合は職員が対応している。また、法人内の老人保健施設の看護師に利用者の状態について相談ができるのできめ細かな支援につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいないが、法人看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師にも相談できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会にできるだけ行くことで、状態把握をするとともに、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞き、かかりつけ医に相談しながら支援に取り組んでいる。	利用者の高齢化に伴い、今後、身体機能等の重度化が予測される。医療行為が必要になった時点で常に利用者や家族、かかりつけ医等と話し合い、その後の方向性を決めている。職員ミーティングで看取りについての話し合いや勉強会もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員救命講習に参加している。定期的な訓練に取り入れていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2～3ヶ月に一回は、火災、地震、昼夜を想定した訓練を実施している。また、年一回消防署の協力を得て、地域の方々も参加し実施している。	利用者一人ひとりの「命を守る」ことを第一に実際にヘルメットを着用しての避難訓練が行われている。職員は夜間の一人体制の訓練もし、ホームの立地条件に照らし合わせた自然災害の想定訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人を尊重した関わりに努めている。プライバシーに関わることで、他者に分らないような声掛けや、支援をしている。	プライバシーの保護に関しては運営規程に記載されている。職員ミーティング等で個人情報の保護についての話し合いをし、利用者の誇りや尊厳を損ねない対応に努め、耳の遠い方にも周囲に配慮しながら言葉を選び耳元で相手がかかるようにはっきりと話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、本人の思いや希望を引き出せるよう努めている。また、押しつけにならないよう、本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のメリハリを考え、基本的な流れはあるものの、その時々希望に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、洗顔、化粧水を付けたりなどできるよう関わり持っている。食後の口回りや、衣類の汚れがあれば更衣するなど、日中を通して、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の把握に努め、食事作りに反映している。食事作り、片付けでは、その人の力に合わせた、できることを無理のないよう行っている。	一部介助の方もいるがほとんどの利用者は自力で食事を取ることができる。「五感を生かして」を基本として取り組んでおり、食事作りの経験を生かし利用者の持てる力を発揮していただいている。訪問調査当日も全員でテーブルを一つに繋げ、「いただきます」の声と共に食事が始まり、温かい雰囲気の良い時間が流れていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量を観察しており、体調により同じ物が食べづらいようなら、食べやすいものを提供している。体重測定を定期的に行っており、急激な変化に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、。本人に合わせた口腔ケアを行っている。月1~2回訪問歯科の診療を受けており、本人に合わせたケアの実施やアドバイスももらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツへと変更するなど状態に合わせた関わりをしている。排泄パターンの把握、トイレでの排泄支援に努めている。職員の交替時には申し送りを行い、切れ目ない介助につなげている。	自立や一部介助の方、リハビリパンツにパット使用の方と多様であるが、職員は排泄について一人ひとりのパターンを把握しており、声掛け誘導を行なっている。誘導や見守りの際、利用者の自尊心にも配慮しさりげない支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に、水を飲んでもらう、野菜の多い食事提供など行っている。必要に応じて、下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入りたい希望に合わせ、入浴していただいている。入浴が好きでない方もいるが、気分よく入ってもらえるような声掛け、関わりに努めている。	入浴時一部介助の方が5名、全介助の方が2名ほどいる。利用者の体調や希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調に合わせて対応している。風呂場と脱衣場は明るく気持ちの良い空間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子や希望に合わせ、休んでいただいている。夜間よく休めるよう、日中の活動の充実にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表があり、薬の理解、把握に努めている。状態に合わせ、かかりつけ医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力に合わせた、役割を場面場面で持たせていただいている。本人の楽しみの把握に努めており、趣味、得意なこと、個別外出などの支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と地域のバス旅行に出かけたり、季節の花を見に行くなど、希望、好きなものを把握しながら行っている。	地区社協主催の「ふれあいバスの旅」に毎年1名の方が参加しており、今年は家族の方が付き添い出掛けられた。また、年間外出計画があり、天気の良い穏やかな日にはお花見等に出かけたりもする。出かける際にはトン汁などを作り、お弁当持参で行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方もおり、買い物に持参されている。安全に使えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝全員で掃除しており、清潔に保たれている。季節に合わせた、温度調節や、花や飾りもので季節感を出すなど、過ごしやすいよう努めている。安全も考慮しながら、移動の妨げにならないよう、家具の設置にも気を付けている。	古民家の内部は改装されバリアフリーになっており、食堂兼居間には自然光が降り注ぐ天窓が取り付けられ、明るい落ち着いた空間となっている。200年前に造られた玄関はくぐり戸で、十分な幅と緩やかなスロープで安心感がある。居間も居心地の良い環境作りがされており、利用者はそれぞれお気に入りの場所でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2台置き、ゆったりと座ってくつろげるようにしている。食卓で作業したり、読書をしたり、共用空間の中でも、各個人の居場所作りに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族に馴染みのものがあれば持ってきていただけるよう呼びかけており、使い慣れた家具を配置したり、家族の写真や飾りつけをしたりなど、居心地よい環境作りに努めている。	居室には、利用者の思い出の品や作品が飾られ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されており、居心地の良い空間になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を確保し、安全に行き来できるよう配慮している。夜間の安全を考え、足元にライトを付けている。		